

契約農業は、より裕福な農家の収入を向上させる



エビデンスは、契約農業の取り決めは、期間外に生き残るために農家に明確な動機付けを提供する必要があることを示唆している。

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューでは、低および中所得国の小規模農家の収入と食料安全保障に対する契約農業の影響を調査する。このレビューでは、75件のレポートからの調査結果を要約し、そのうち22件(26件の契約農業介入をカバー)がメタ分析に使用された。

契約農家は、農家と企業間の販売契約であり、政府と寄贈者に人気がある。契約農業は、農家に相当な収入をもたらすことができる。さらに、これらの利点は、契約農業スキームが生き残るために必要となる可能性がある。より裕福な農家が、契約農業計画に参加する可能性が最も高い。

このレビューは何を調査したのか？

契約農業は、生産を開始する前に合意された販売契約であり、農家にリソースまたはサービスを提供する。会社が提供するサービスパッケージは場所ごとに異なり、輸送や認証を含んだりプロビジョニングやクレジットを投入することもできる。

この系統的レビューでは、小規模農家の所得効果に関するエビデンスを要約し、平均効果を評価し、これらの効果を高める要因の組み合わせを探る。

何の調査が含まれていたのか？

含まれた研究は、低・中所得国の小規模農家の収入と食料安全保障に対する契約農業の影響を調査しなければならなかった。研究では、選択効果を考慮して、適切な統計的手法を備えた比較グループを使用する必要があった。

契約の行の影響を定量的に評価した75の研究を特定し、そのうち7471人の回答者を対象とした22の研究は、収入の影響のメタ分析にかけのに十分な厳密さであった。メタ分析は13の発展途上国における契約農業の26の実証研究を対象とする。

このレビューの主たる結果は何か？

契約農業は、23~54%の範囲の平均効果で、農家の収入を大幅に増加させる可能性がある。これらの推定値には、個々の研究における生存者バイアス(計画から脱落した農家に関するデータはない)そして、エビデンス本体(最初の年代で潰れた契約農業の取り決めについての研究)、および文献の出版バイアス(重要でない結果の過少報告)のため、推定値には上方バイアスがある。故に、調査結果の解釈には注意を要する。

